

## 天地人

モリアオガエルの産卵を初めて見た。1匹の雌に数匹の雄が群がり、足をしきりに動かして白い泡の塊を作っている。泡の中に卵を産み付けているのだという。射水市野手（小杉）に整備

されたビオトープを見に行ったときのことだ▼白い卵塊がいくつか池の上の木の枝にあった。低い所にあるのを見ようと葉を持ち上げたら産卵していた。かなり以前に南砺市のつくばね森林公園で目にしたことはあったが、産卵まで見られるとは思ってもしなかった。神秘的だった▼ビオトープは生物が生息する空間のことである。学校などでよく見るが、どうして里山に造るのか不思議だった。整備したNPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会理事長、岡田一雄さんの説明は明快だ。「里山は人がいなくなることで生物多様性が崩れる。山林には竹が侵入し、耕作放棄田には外来のセイタカアワダチソウが繁茂する」▼整備した三つの池には、モリアオガエルやサンショウウオ、ホタルの餌となるカワニナが見られるようになった。姿を消していた生き物が、すむ場所ができたため戻ってきたのだ。今後はホクリクサンショウウオの生息を目標にする▼ことしはゲンジボタルが例年よりも早く現れていると聞いた。自然の何かがおかしくなっているのだろうか。そう考えると、岡田さんらの活動が一層重要に思えてくる。